

〈法座案内〉

三日講

宗祖を訪ねて

十月三日(水)十四時 輪番

十一月三日(土)十四時 輪番

十二月三日(月)十四時 輪番

味読正信偈

十月十三日(土)九時半 輪番

十一月十三日(火)九時半 輪番

十二月十三日(木)九時半 輪番

本山報恩講参詣

十一月二十三日(金)九時半

定例法話

十二月二十三日(日)九時半

大谷大学研究補助員

佐々木秀英師

報恩講

十月二十三日(火)十時

大谷専修学院院长

狐野秀存師



第13号
平成24年(2012年)
10月・11月・12月号
発行：編集
岡崎別院
輪番 福田 大

花びらは散っても 花は散らない

人は去っても 面影は去らない

金子大榮

先日、NHKテレビで納棺復元師の女性を取り上げたドキュメント番組が放映された。それは東日本大震災(三・一一)で犠牲になられた方々のご遺体を、写真をもとに生前の顔に復元して、遺族にお返しするという内容だ。

納棺復元師がコメントされていた中で、私が一番印象に残っているのは「人間には笑いじわがあり、それが笑う表情を作っている。マッサージしているとその笑いじわが出てきて表情が出てくるんですよ」ということであった。知らず知らずに出ている表情「目は口ほどにものを言う」というのが、言葉を超えて出てしまっている私の表情はどうだろうかと思わされた。

番組では津波で犠牲になられた三大家族が紹介され、その家族をドキュメントしていた。その中に特に印象に残った家族があった。



二〇一二年報恩講
参詣のお願い

二〇一二年十月二十三日(火)
午前十時

鍵役 信悟院殿 御参修

御法話 狐野秀存師

(大谷専修学院 院長)

* 駐車場・駐輪場が完備しておりますので、皆さんお誘い合わせの上
ご参詣ご聴聞くださいますようお願い
申し上げます。

宗史蹟親鸞聖人岡崎草庵跡
真宗大谷派(東本願寺)

岡崎別院

〒606-8335
京都市左京区岡崎天王町26番地

電話・FAX 075-771-2921

http://okazakibetsuin.com
info@okazakibetsuin.com

その家族は五大家族(お父さん・お母さん・子供さん三人)震災当日、お母さんが子供さんを学校まで迎えに行く途中、津波に合われて亡くなられた。しばらくしてご遺体が発見されるも、その顔は、生前の面影を偲ぶこともできない状態であった。お父さんは妻の遺体の子供に合わせるか否かを思案されるが、「生前のままのお母さんと会わせ、お別れをさせたい」という願いから納棺復元師に依頼された。

納棺復元師は、写真を見ながら、数時間を懸け懸命に笑いじわを作り、生前のお母さんの顔に復元された。子供さんは一同に「あつ、お母さんだ」「お母さんが帰ってきた」と言う。その表情は、悲しみながら母の死の現実を受け入れている子供さんたちのほつとした表情であるように思えてならなかった。それから一年後の家族の中で、三人の子供さんの一人が、「この間、夢の中にお母さんが出てきて、『あのねお父さんに言い残したことがあるの。だからそのことをお父さんに伝えてくれる。それはね、ありがとうということなんだ。きつとお父さんに伝えてね』と言ってたんだよ」と。

お母さんの死を悲しみの中で受け入れ、その悲しみの中でお母さんに出会い続けている子供さんの言葉を感動をもって聞かせていただき、亡くなっていかれた方と出遇っていける広大無辺の世界を子供さんから教えてもらったことであった。

分陀利華

我、凡夫の相を知らされて

昨今、新聞の三面記事を賑やかしている多くは、窃盗・強盗である。

そのときまで私は、それらの犠牲者の大半は高齢者か女性で、全くの他人事だと思っていた。それは先日坊さんの仲間十人ほどで食事に出かけたときだった。喋りながら無防備で歩いていると、突然正面から無灯火のバイクが出現、何事かと思うと同時に、我がセカンドバッグはバイクとともに闇夜に消え去った。

セカンドバッグの中には免許証・クレジットカード・キャッシュカード・健康保険証・スケジュール帳・少々の現金・高血圧の薬も入っていた。突然のことで、茫然自失であったが、しばらくして徐々に怒りが込み上げてきた。その後警察署では質問の洪水が待ち構えていた。「バイクの色は」「犯人の特徴は」「ヘルメットの形状は」等。それは午後八時半から午前一時過ぎまで、延々と五時間にも及び、また怒りが込み上げてきた。質問攻めを終えて、警察署から妻の運転で家

までの道中、バイクに乗っている人を見るたびに犯人に見えてくる。どうにもならない私の実相が浮き彫りにされた。翌日、早々に運転免許再交付手続きに半日をかけ、高血圧の薬をもらうために病院へ行き、健康保険証の再交付のための手続きをし、盗難処理に一日奔走した。また怒りが込み上げてきた。

盗難から四日後、車で三十分ほど離れた警察署から「セカンドバッグを川で拾われた方がおられましたので、署まで受け取りに来てくださーい」との連絡があり、受け取りに行き、現金以外が戻ってきたものの、どれもこれも濡れて使えないものにならない現状を見るや否や、また怒りが込み上げてきた。

取られて怒り、質問攻めに怒り、盗難処理に怒り、出てきて怒ることしかできない私の相、これを宗祖は「凡夫というは、無明煩惱われらがみにみちみちて、欲もおおく、いかり、はらだち(中略)ひまなくして臨終の一念いたるまでとどまらず、きえず、たえず」と述べられたのであろう。

この私の不注意による一連のことで、事件の後、他の仲間が深夜まで付き合ってくださいましたが、私には何よりも人と人の間柄を教えてくださいたく貴重な出来事であった。

梅香記

境内に駐輪所がなく、点在して止められていたバイク・自転車の駐輪場設置が急務となっていた。

七月に竹藪の竹をご門徒のご協力により伐採を行い、宗務所と岡崎別院奉賛会の助成により駐輪場(バイク・自転車置き場)が完成した。



別院往来

朝の法話

今年の朝の法話は、毎年のおおりに七月二十五日から二十七日まで行われた。



二十五日は真城義磨先生(前大谷中高等学校校長)が「安心してがはれる世界を」、

二十六日は尾畑文正先生(前同朋大学学長)が「浄土でまちまいらせそうろう」、二十七日は本多雅人先生(東京教区 蓮光寺住職)が「本当に救われるとは」

「悲しみの中に開かれる世界」という講題で法話をされた。三日間の聴聞者はおよそ四百五十名であった。

お能教室 ワークショップ開催

去る八月十九日、午後一時より本堂においてお能教室が



開催された。

金剛流シテ方の宇高德成師から装束の紹介や能面の表情の説明があり、

続いて能面師の宇高景子師による能面の彫、

絵付けの実演のあと、参加者の体験もあった。

福島県 飯館村から

去る八月十九日、福島県飯館村(現在、福島市内に避難中)の三家族十八人が宿泊された。

境内ではウエルカムパーティーが開催され、親たちの歌声や子供のはしゃぎ声や泣き声に包まれ、活気に満ちていた。



真宗木辺派仏教婦人会

去る九月九日、「真宗木辺派仏教婦人会」の団体参拝に木辺派の御門首・お裏方をはじめ、宗務総長、内事部長等九十九名が参詣された。

午前中は東本願寺を参詣され、枳穀邸で昼食をとられた。午後は岡崎別院で福田輪番の話などで一時間ほど過ごされ、帰途に着かれた。

